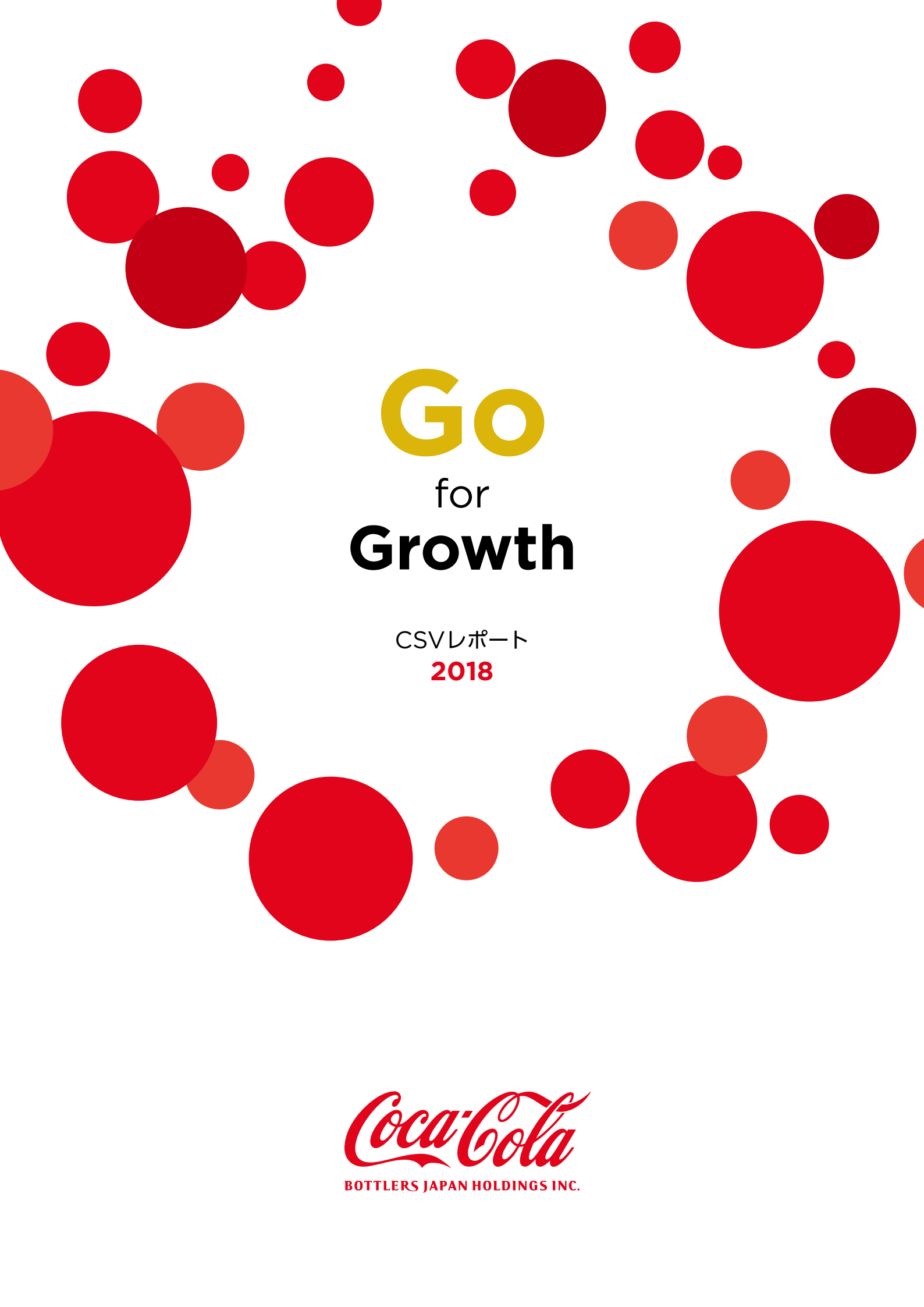




Go for Growth

CSVレポート
2018

Coca-Cola
BOTTLETS JAPAN HOLDINGS INC.

Contents



- 1 プロローグ
- 6 トップメッセージ
- 8 SDGsとCCBJHグループ
- 9 2017年活動報告 挑戦1:人々の健康に貢献する
 - 10 Feature Story 多様な製品の提供でお客さまの健康を支える
 - 12 正しい飲料知識を届ける
 - 13 食の貧困問題解消に向けて
 - 14 お客さまに安全・安心を届ける
 - 16 お客さまの「声」を聴く
- 17 2017年活動報告 挑戦2:環境先進企業へと進化する
 - 18 Feature Story 水資源保護活動の推進
 - 21 環境経営の推進
 - 22 気候変動緩和に向けて
 - 23 循環型社会に向けて
 - 24 CCBJIグループのCO₂排出実績
- 26 2017年活動報告 挑戦3:コミュニティとの連携を強化する
 - 28 ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを大切に
 - 30 2017年のコミュニティ活動
- 32 社員に関する情報とステークホルダーからの声
 - 32 社員の健康や働きがい高める
 - 34 スペシャル座談会 一人ひとりのライフキャリアを考える
 - 36 労働安全衛生の取り組み・働き方改革
 - 37 社外ステークホルダーのみなさまからの声
- 38 About CCBJHグループ 挑戦を支えるマネジメント
 - 38 コーポレート・ガバナンス体制
 - 39 倫理・コンプライアンス、情報セキュリティ、リスクマネジメント
 - 40 連結業績ハイライト
 - 41 主要製品ラインナップ
 - 42 CCBJHグループの概要
 - 43 数字で見るCCBJHグループ
 - 44 コミュニケーションツールの紹介
 - 45 工場見学のご案内

編集方針

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ (CCBJHグループ)は、飲料を通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。当レポートは、CCBJHグループのステークホルダーである地域社会、各団体・組織、お客さま、お得意さま、サプライヤー、株主のみなさま、そしてともに働く社員に、CCBJHグループの共創価値 (CSV)の理念や考え方およびCSVの実現に向けた取り組みを具体的にお伝えするものです。

● 参考にしたガイドライン

GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」

● 対象期間

報告事例の対象期間は、原則2017年1月～2018年4月末までとしています。
データの集計期間は、2017年1月～12月末までです。

● 対象範囲

原則としてコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)および主要なグループ会社*を対象としています。
(グループ体制図はP42をご覧ください。)

● 発行日

2018年5月

● 用語について

CCBJHグループ (私たち)はコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)および連結子会社9社を指し、CCBJIはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)を指します。CCBJIグループはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)および主要なグループ会社*を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ (株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ (株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。顧客はお客さま (主に消費者を指す)およびお得意さま (主にお取引先を指す)を含みます。

※コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング (株)、FV ジャパン (株)、(株)カディアック、コカ・コーラ カスタマー マーケティング (株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンセールスサポート (株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット (株)

機会と捉えるか、 課題と捉えるか。

私たちは考えます。
これからの企業があるべき姿を。

2065年の
日本の生産年齢人口割合

51.4%

(国立社会保障・人口問題研究所 2017)

2015年の
日本の子どもの貧困率

13.9%

(厚生労働省 2016)

2100年までの
世界の気温上昇

最大

4.8℃上昇

(1986~2005年平均に対して
IPCC 2014)

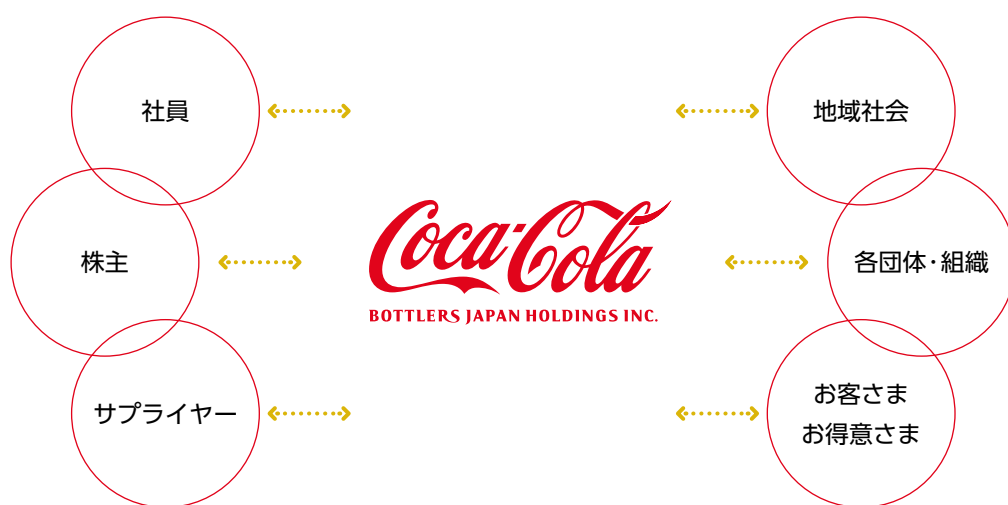
2050年の
世界の水需要

約**55%**増

(2000年比、OECD 2012)



共創 価値



CSVとともに創造する
ステークホルダー



Creating Shared Value

CCBJHグループの
持続的成長

持続的な社会の
実現

私たちが目指す価値

私たちは挑戦する。



CSVの理念

CSVの優先課題

健康

環境

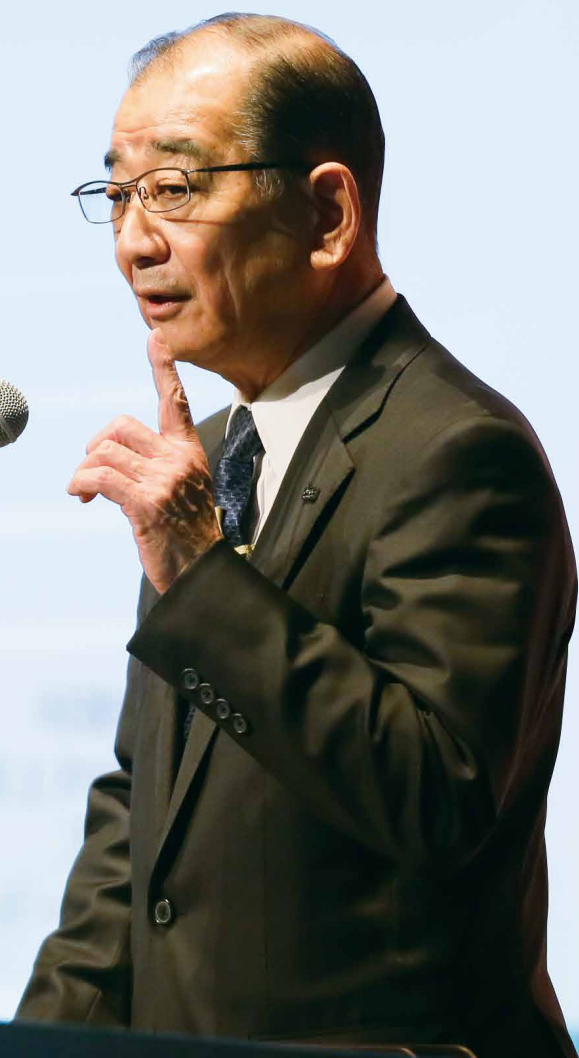
コミュニティ



社会課題の解決と 自社の成長は同義。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
代表取締役社長

高松民雄



ミッション

みんなと地域の日々に、
ハッピーな瞬間と
さわやかさを

コーポレートアイデンティティ

地域密着

私たちは、長年にわたって育んできた、
環境や地域社会とのつながりを
たいせつにし、共創価値 (CSV) を
実現していきます

品格

私たちは、人権を尊び、規範を重んじ、
法令を遵守するとともに、
常に高い倫理観を持続けます

THE
ROUTE

大きなステージで 共創価値 (CSV) を実現

2018年1月、コカ・コーラウエストグループとコカ・コーライーストジャパングループは経営統合をさらに推し進め、新たにコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ (CCBJHグループ) を発足させました。CCBJHグループは、1都2府35県を営業地域とし、日本のコカ・コーラシステムの約9割の販売量を担う、国内最大のコカ・コーラボトラーであるとともに、世界に250以上あるコカ・コーラボトラーの中でも、売上高で世界第3位*の規模を誇ります。

私たちは事業規模の拡大とともに、社会課題に対応することが、企業としての責務であると考えます。CCBJHグループの強みを活かして持続可能な社会の発展に貢献することが、多くのステークホルダーのみなさまからの支持、信頼につながると考えます。本業に即した形で社会の問題を解決するため、共創価値 (Creating Shared Value : CSV) の概念のもと、ビジネスを推進していきます。

そして、CCBJHグループの誕生とともに私たちが掲げたのが、グループ企業理念「THE ROUTE (ザ・ルート)」です。「THE ROUTE」では、これまで積み上げてきた経験やノウハウを融合させ、品格を備えたエクセレントカンパニーを目指すことに加え、これま

でと変わらず「地域密着」「顧客起点」を私たちが大切にする価値観として位置づけています。これは、日々の暮らしに寄り添う総合飲料企業として社会に高い付加価値を提供しながら、お客さま、お得意さま、株主さま、地域社会、そして従業員とともに幸せを育んでいく、まさにCSVの考え方そのものです。私たちは、すべての事業活動における多様な取り組みを通じて、CCBJHグループのCSVの理念を広くお伝えし、地域社会や顧客のみなさまから評価される企業を目指します。

さらに、私たちは事業活動と関係の深い「人々の健康への貢献」「環境先進企業への進化」「コミュニティとの連携強化」を最優先課題と位置づけ、従来のCSR (企業の社会的責任と貢献) の考え方を進化させ、ビジネスにより深く結びつくような社会課題を解決する取り組みを加速させていきます。

最後に、当レポートは、これまでの私たちの歩みを振り返りながらも、さらなる成長に向けたメッセージをみなさまへお届けするものです。サステナブルな未来を実現するため、私たちの成長が地域社会の発展へとつながり、お客さまにハッピーな瞬間とさわやかさをお届けすることをお約束いたします。

※ 2017年現在

顧客起点

私たちは、常に顧客 (お客さまとお得意さま) を中心に考え、顧客から学び、信頼されるパートナーをめざします

ダイバーシティ (多様性/多面性)

私たちは、社員一人ひとりの人権や個性を尊重し、能力を発揮できる環境を整え、様々な価値観やアイデアを積極的に取り入れます

カルチャー

- ① 「歴史と伝統」を重んじつつ、「未来」へ前進します
- ② 人生と仕事に「情熱」を燃やします
- ③ 「倫理」に基づく正しい判断をします
- ④ 自ら考え、「責任」ある行動をします
- ⑤楽しむことを忘れずに「挑戦」し続けます
- ⑥ 年齢や立場にとらわれず「敬意」をもって行動します
- ⑦ 「連携」をたいせつにします
- ⑧ 「シンプル・スピーディー」を追求します

世界をみんなに変えよう！ CCBJHグループはSDGsの実現に貢献します。

2015年9月、ニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、150を超える加盟国代表の参加のもと、その成果文書として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダの中心は17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)」です。SDGsに向き合うことはCSVの実現を目指す私たちにとって不可欠であるとの認識のもと、私たちはSDGsを新たな指標と捉え、SDGsの実現に貢献していきます。

持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

“誰一人取り残さない”世界の実現を目指して、国際社会が2030年までに達成すべき課題を掲げた世界共通の目標。SDGsは経済的、社会的、環境的側面に横断的に関わる課題を広く含有した普遍的な目標で、政府、企業および市民社会に対して、全世界的な行動を要請しています。

CSVとSDGsの理解促進に向けて

第一歩として、CSV実現のための3つの優先課題と、それらの優先課題を軸にグループで行っているさまざまな取り組みを、SDGsのフレームの中で改めて考察しました。これにより、私たちがSDGsの実現に向け力を発揮できる部分はどこか、私たちの取り組みで不足している部分はどこかなど、より具体的に考えることができました。今後は、グループ内で議論を続けながら、マテリアリティ*の特定や、SDGsを用いたバリューチェーンの可視化などにつなげていきます。(3つの優先課題とその活動に関連するSDGsの目標は各セクションの扉ページ：9ページ、17ページ、27ページに掲載しています。)

※ マテリアリティとは、社会と事業双方の重要度から判定した、優先的に取り組むべき課題のこと。

CSVを実現するための3つの優先課題

人々の健康に
貢献する

環境先進企業へと
進化する

コミュニティとの
連携を強化する



2017年
活動報告



挑戦 1

人々の健康に 貢献する



私たちの目指すところ

- 食の貧困解消や生活習慣病の低減、正しい飲料知識の啓発などを通じて、健やかな生活づくりの促進に取り組みます。
- 原材料の調達からお客さまに至るまでのバリューチェーンにおいて、国際規格や法令を遵守し、安全で高品質な製品・サービスを届けます。
- ステークホルダーからのご意見を傾聴し、豊富な製品ラインナップで、お客さまの多様な生活シーンに選ばれる製品・サービスを展開します。

取り組むべき活動内容

健康的な
ライフスタイルへの貢献

安全で安心な製品の提供

お客さまの期待に応える
製品・サービス

Feature Story

多様な製品の提供で お客さまの健康を支える

お客さまのさまざまなライフシーンに寄り添う企業として、時代のニーズに合わせた豊富なラインナップでおいしい飲料とともにさわやかなひとときをお届けしています。近年は、高まる健康志向に応えるために、特定保健用食品（トクホ）、機能性表示食品のラインナップを広げ、2017年には「コカ・コーラ」初のトクホが誕生。心と体をうるおし、健康増進にも役立つ製品を提供することで、お客さまの生活スタイルをサポートしています。



トクホとおいしさの両立！「コカ・コーラ プラス」

健康志向とおいしさへのこだわり。お客さまの2大ニーズに応えたいとの想いから生まれたのが、「コカ・コーラ」史上初のトクホ「コカ・コーラ プラス」です。「コカ・コーラ」ならではのおいしさはそのままに、糖類ゼロ、カロリーゼロ、さらに血中中性脂肪に着目した機能性をプラス。食事と一緒に楽しめる、おいしいトクホの「コカ・コーラ」として世代を超えて支持を集めています。

- NEWS

初の青汁入りジュースを開発

トクホ・機能性表示食品以外にも、お客さまの健康的な生活に寄り添う製品を取りそろえており、「ミニッツメイド おいしいフルーツ青汁」はそのうちのひとつです。

キューサイ(株)とのコラボレーションによって生まれたCCBJHグループ初の青汁入り果汁飲料で、原材料の青汁には、農薬・化学肥料を一切使わずに生産した高品質の国産ケールを使用。

「ミニッツ メイド」のこだわりの果汁をブレンドすることで、健康意識が高いシニア層はもちろん、独特の風味などから青汁を敬遠してきた20～30代の若年層にも受け入れられる飲みやすい味わいを実現しました。



トクホって？ 機能性表示食品って？

トクホは健康の維持増進への有効性が科学的根拠に基づいて認められた食品であり、消費者庁の許可が必要です。機能性表示食品は、事業者の責任において科学的根拠に基づく機能性を表示した食品で、消費者庁への届出が必要です。

2017年に発売された「スプライト エクストラ」は、食事から摂取した脂肪の吸収を抑え、食後の血中中性脂肪の上昇をおだやかにする関与成分が配合されたトクホの炭酸飲料。「アクエリウス S-Body」は、体脂肪を減らす機能があることが報告されているローズヒップ由来ティロロサイドを配合した「アクエリウス」ブランド初の機能性表示食品です。



トクホ・機能性表示食品 ラインナップ



<http://www.cocacola.co.jp/inryoguide/lineup>

※ これらのトクホおよび機能性表示食品に関する許可表示・届出表示などの詳細は、上記リンク先をご覧ください。

正しい飲料知識を届ける

清涼飲料を扱う企業として、私たちは正しい飲食習慣を広める活動を進めています。パッケージ上の表記やウェブサイト上での説明などで、健康や栄養に関する情報提供に努める一方、熱中症や生活習慣病の予防に関する健康関連のプログラムを積極的に開催し、正しい知識の普及はもちろん、活動的で健康的なライフスタイルを広く提案しています。

水分補給セミナー 開催回数



33回



水分補給セミナーの開催

日常生活やスポーツなどさまざまなシーンにおける正しい水分補給について知っていただくために、学校や各種団体・企業のみなさまを対象とした水分補給セミナーを開催しています。また、販売エリア内のイベントなどでは、セミナーの開催やパネル展示で、参加者のみなさまに水分補給の大切さについてわかりやすくお伝えしています。2017年は33回の水分補給セミナーを実施し、約5,000人のみなさまにご参加いただきました。セミナーを受講したみなさまからは「規則正しい生活が大切なことを改めて話していただきとても良かった」「ミネラルの大切さが学べた」「水分補給のタイミングがわかった」などの声をいただいています。今後も正しい清涼飲料知識の普及とともに、新たなプログラムの開催にも取り組んでいきます。

- NEWS -

「Qoo(クー)」が生まれ変わりました！

「ミニッツメイド Qoo」は、高品質な果汁と純水を使用して、お子さまが飲みやすい味に仕立てた、保存料・合成着色料不使用の果汁入り飲料です。2017年9月、食品表示法の食品表示基準の一部が改正され、全加工食品の原料原産地表示が義務化されました。

コカ・コーラシステムでは、「消費者の自主的かつ合理的な選択機会の確保に資するよう、可能な限り産地情報を充実することが望ましい※」という今回の食品表示基準改正の観点に賛同し、これをきっかけに、同年9月「ミニッツメイド Qoo」ブランドとして初めて国産エキスを使用するリニューアルを実施。パッケージにもわかりやすい原料原産地表示を加えました。

※ 消費者庁「食品表示基準について（平成27年3月30日消費表第139号）」第10次改正

みかんのエキ스는
愛媛県産

りんごとぶどうのエキ스는
長野県産だよ！



食の貧困問題解消に向けて

私たちは、国連の「世界人権宣言」をはじめとした国際的な人権原則を遵守するとともに、国内における人権問題の解消と人権尊重の徹底を図っています。昨今、日本では生活困窮者や子どもたちの「食の貧困」が社会問題となっています。私たちは地域のステークホルダーと協働し、清涼飲料を取り扱う会社としての責任を果たすためさまざまな施策を実施しています。

フードバンクへ
寄贈した飲料



約2.6万
ケース

フードバンクを通じた製品寄贈

フードバンクとは「食料銀行」を意味する言葉で、まだ食べることができるにもかかわらず処分されてしま

う食品を、食べ物に困っている施設や人に届ける団体や活動のことをいいます。CCBJIはセカンドハーベスト・ジャパンや全国フードバンク推進協議会などのフードバンクとパートナーシップを結び、製品寄贈を行う取り組みを進めています。2017年には、約2万6千ケースを寄贈しました。

寄贈する飲料は、各団体を通じて社会福祉施設などに提供されます。製品寄贈は資源の無駄を減らし、食品ロス低減にもつながっています。

広がる自動販売機の可能性

自動販売機で1本の飲料を買うごとに寄付を募ることができたら——。そんなアイデアから「ゆび募金」という名の募金型自動販売機は誕生しました。私たちは認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会の設立当初から募金型自動販売機を通じた支援に協力しており、2017年は約1,700万円の支援金を当法人へ寄付しました。支援金は環境・福祉・子どもの支援など、社会問題に取り組む公益非営利活動団体に寄付されました。

「ゆび募金」は飲料1本につき数円が寄付金になる仕組み。継続的な支援が必要とされる社会貢献と、地域に常に存在する飲料自動販売機事業との間には、

(左)
認定NPO法人
ジャパン・カインドネス協会
青木 由貴子さん

(右)
コカ・コーラ ボトラーズ
ジャパン (株)
営業本部
広域法人開発第三営業部
営業二課
佐藤 直樹



高い親和性があります。「日本に寄付文化を根づかせる」というジャパン・カインドネス協会のみなさまの志を引き続き支援していきます。



ゆび募金の仕組み



自動販売機の
オーナーさま

飲料メーカー

数円

寄付

お客さまに安全・安心を届ける

「すべてのお客さまへ安全で高品質な製品とサービスをお届けしたい」その想いを胸に私たちは業務を進めています。原材料調達から、製造、物流・輸送、販売・サービスに至るまで、すべてのプロセスで、常に顧客起点で品質の確保・向上に取り組んでいます。

品質方針

私たちはお客さまに、いつでも、どこでも、誰にでも安全・安心・フレッシュでさわやかな商品・サービスを提供するために、品質を最優先事項として捉え、すべての業務プロセスで、品質の確保および向上に取り組んでいます。

品質に関わる基本的な考え方のもと、国内の基準を遵守するとともに、コカ・コーラシステムでは独自のマネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」による世界共通のオペレーション

管理を行っています。

「KORE」は原材料の調達から製造、物流、販売を経とお客さまに製品が届くまでの各過程において「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOをはじめ、各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を課す内容となっています*。

※「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はFSSC22000に、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に準拠しています。

品質に関わる基本的な考え方



- (1) 各部門がそれぞれの役割と責任を認識して、お客さま起点の品質管理を実践します。
- (2) 「品質」を最優先事項として日常業務を遂行します。
- (3) 一人ひとりが常に「品質」を意識し考えて、ブランド価値を高めるために行動します。



① 調達の現場で

お客さまに安全・安心でフレッシュな製品をお届けするためにはサプライヤーのみなさまの協力が不可欠です。そこで私たちは、サプライヤーのみなさまに対し、高い品質の物品、サービスを提供していただくことはもちろん、あらゆる業務活動が法令に従い倫理的であることを求め、その行動指針として「コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングスグループ サブ

ライヤー基本ポリシー」を策定し、遵守をお願いしています。

原材料はこの「基本ポリシー」に合意したサプライヤーからのみ調達し、購入後は、国内の基準と「KORE」の品質基準に基づいて厳正にチェックを実施。安全性に問題がないことをしっかりと確認したうえで使用しています。

1週間の
調達原材料の
検査検体数



600
以上



Check!

サプライヤー
基本ポリシー



<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/>



② 製造の現場で



FSSC22000※
取得率



100%

※ 食品安全マネジメントシステムの国際規格

製造工場では、日々徹底した衛生管理が行われ、製品の安全性確保に万全を期しています。中でも、お茶やコーヒーなどのPETボトル製品は無菌充填ラインで生産され、充填・密封工程における微生物の混入をシャットアウトしています。

品質管理については、すべての工程において検査を行い製品の品質を確認しています。製造ラインでは充填量やキャップの巻締具合、ラベルの位置、賞味期限の印字などを検査機で判別し、さらにはオペレーターが検査手順に従って定期的に確認するダブルチェック体制をとるなど、人と機械による管理を徹底しています。

食品安全への取り組みについては、すべての工場でFSSC22000（食品安全マネジメントシステムの国際規格）を取得しており、各製造工程において重要管理ポイントを設定し、管理しています。

このほか、継続的なOE（Operational Excellence）活動を通じて、不具合、無駄や非効率を見える化し、製造効率の最適化の実現に努めています。



③ 保管・輸送の現場で

工場で製造された製品を高品質のままお届けできるよう丁寧な扱いを徹底しています。また、営業部門とサプライチェーン部門との連携により、お客さまのニーズに柔軟に対応できる供給・物流体制を構築。「いつ」「どこで」製造した製品が、「どこに」「いくつ」在庫としてあるかをシステム上で把握し、過剰な生産や在庫を抑制することで、常に高品質でフレッシュな製品をお客さまにお届けしています。



④ 販売の現場で

お取引いただいている得意さまのご協力のもと、保管方法や売り場、在庫商品のチェックを実施し商品管理に努めています。

自動販売機については、商品1本1本を丁寧に扱うことはもちろん、賞味期限の管理を徹底。また、ポストミックスディスペンサーやカップ式飲料自動販売機は、シロップやパウダーを機内で調合し商品化して販売することから、独自の品質衛生管理教育を実施し社内認定された専任担当者が品質衛生管理業務を行っています。

トレーサビリティの面では、原材料管理記録、工程管理記録、流通管理記録などの履歴情報を把握できる流通システムを運用することによって、厳密な商品管理を徹底することができます。



お客さまの「声」を聴く

コーポレートアイデンティティに「顧客起点」を掲げているCCBJHグループでは、お電話やメールなど毎日たくさん寄せられるお客さまからのご意見・ご要望に真摯にお応えし、お客さまからの声をしっかりと関係部門と共有しています。お客さまの期待に応えるために、より良い商品・サービスの改善・改良に向けた取り組みを強化してまいります。

お電話の
つながりやすさ



95.7%

お客さまからのお問合せ応答率



お客さま満足を実現するために

カスタマーコンタクトセンターは、お客さまとCCBJHグループとを直接つなぐ重要な窓口と考えています。単なるご相談やご指摘対応窓口ではなく、「お客さまとのコンタクトを通じ、人々をハッピーにする」をスローガンに「CCBJHグループのファンづくり」を担う部署として位置づけています。お客さまからのご意見、ご要望を受け、お客さまと直接お会いする必要がある場合には、その内容を速やかに地域担当者へ伝え、迅速な対応ができるよう体制を整えています。2018年はコンタクトセンター内へ新たに「VOC課 (Voice Of Customer: お客さまの声)」を設立し、企業活動へのさらなる反映を図ってまいります。

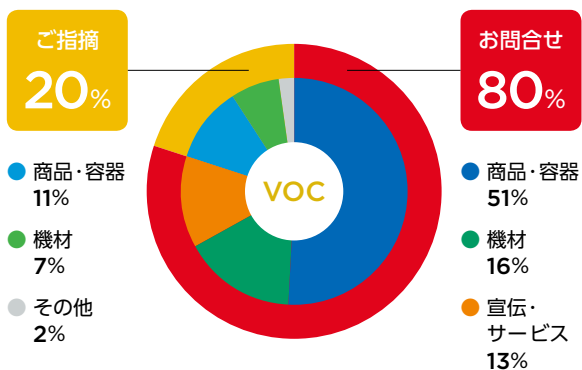
カスタマーコンタクトセンターの取り組み

電話をお受けするコミュニケーションは、顔が見えない分、「傾聴」を心がけ、電話対応の品質向上に日々取り組んでいます。商品の知識はもちろんのこと、お客さまのお気持ちを「くみ取る力」も要求される仕事です。

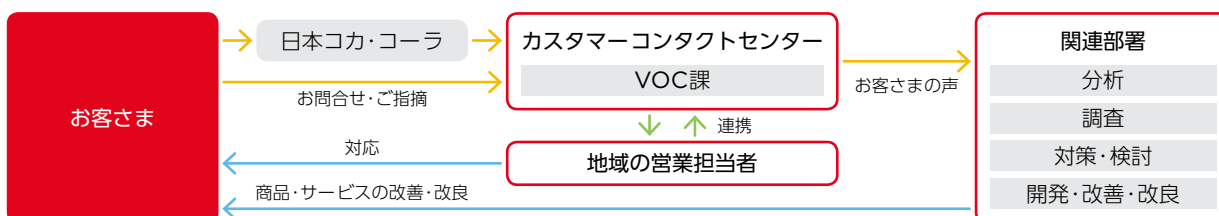


カスタマーコンタクトセンターでは、コミュニケーションの「対応品質」を高めるための研修を、年間でスケジュール化して実施しています。

お客さまからのご相談件数内訳



お客さま対応フロー



2017年
活動報告



挑戦 2

環境先進企業へと 進化する



私たちの目指すところ

- 私たちの事業活動で
最も大切な原材料のひとつである水を大切に使用し、
持続可能な水資源の保護を推進します。
- 世界的な気候変動の緩和へ取り組むために、
環境負荷に配慮した経営資源を投入することで、
持続可能な社会づくりに貢献します。
- 製品容器の省資源化を図り、飲用後の空容器や
自動販売機などの再資源化を進めます。

取り組むべき活動内容

水源涵養率100%の達成

温室効果ガス削減に向けた
取り組み

循環型社会の実現

Feature Story

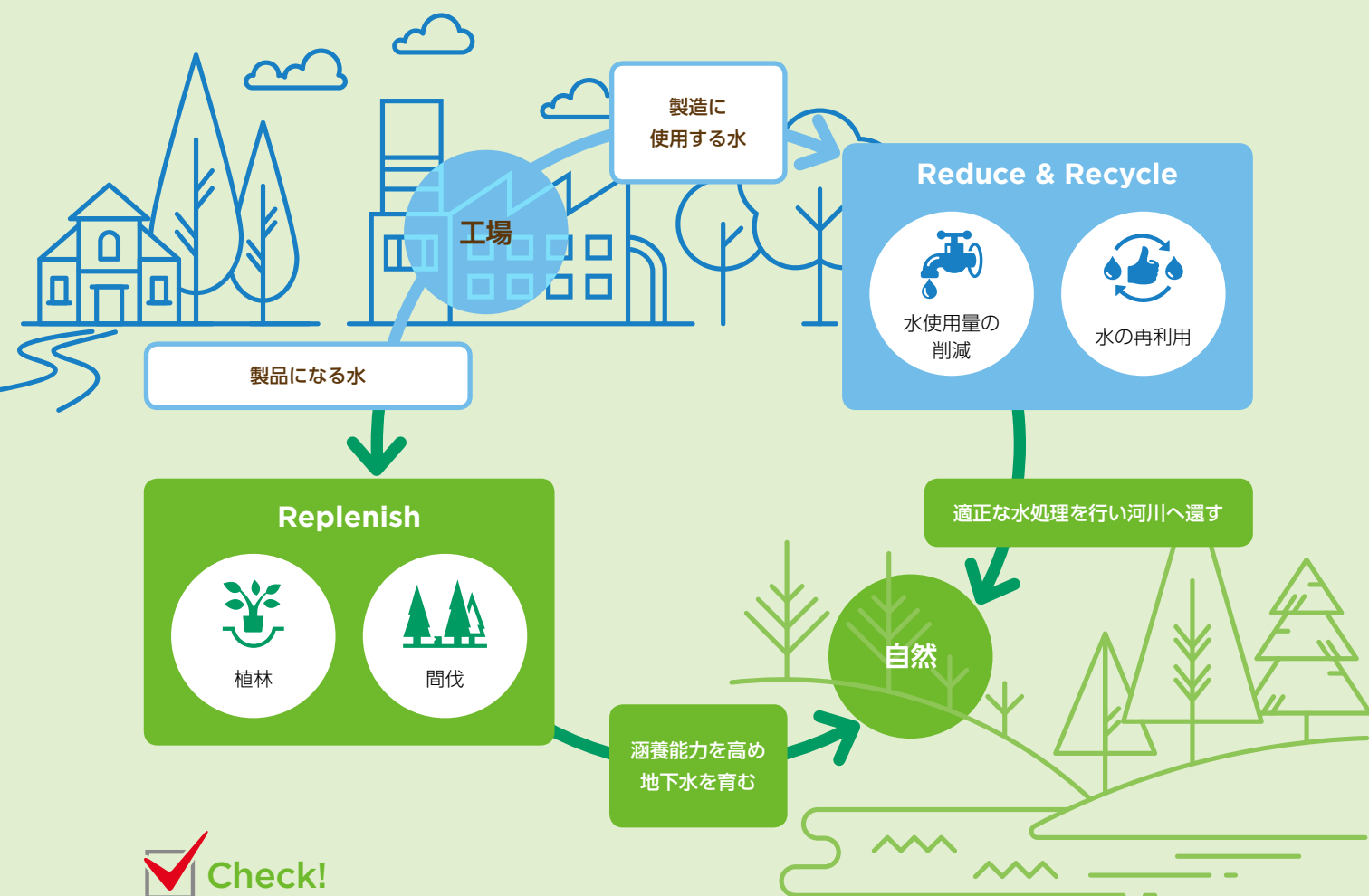
水資源保護活動の推進

私たちは、かけがえのない「水」を利用してビジネスを行う企業として、製品に使用した量と同等の水を自然界に還元する取り組みを推進しています。製造過程における水使用量の削減（Reduce リデュース）、製造過程で使用する水の再利用（Recycle リサイクル）、地域の水源涵養（Replenish リプレニッシュ）を軸とした活動を展開し、2016年より実質的な水使用量ゼロを実現しています。

コカ・コーラシステムの考える水の循環

私たちが使用する水は、「製造に使用する水」と「製品になる水」の大きく2つに分類されます。「製造に使用する水」は、製造工程において洗浄水や冷却水として使用した後に回収・処理を行い、再度洗浄水・冷却水と

して循環利用します。その後、適正に処理したうえで自然界に還しています。一方「製品になる水」は、地域のみなさまと協力し、植林、間伐といった森林保全活動などを通じて水源の涵養能力を高め、豊富な地下水を育むことで自然界へ還元しています。



2017年の製品1Lあたりの水使用量 (WUR: Water Use Ratio)

3.64L/L

2017年の製品1Lあたりのエネルギー使用量 (EUR: Energy Use Ratio)

0.97MJ/L

環境プログラムの推進とReplenish率100%以上を達成！
～私たちは次のステージへ～

各工場の水源域では、地域行政や森林組合などと協定を結び、地域のみならず皆さまにご協力をいただきながら水資源保護活動を進めています。森林保全活動を中心に、草原の保全・再生、涵養能力が高い水田の湛水などにも取り組むとともに、次世代を担う子どもたちを対象とした環境プログラムを定期的
に開催し、水資源保護の重要性について理解を深めていただいています。

2017年に製品に使用した水の自然への還元率 (Replenish率[※])は全体で275%となり、100%以上という当初の目標を達成していますが、今後は各工場ごとの還元率100%達成を目指します。

※ Replenish率 = Replenish量 (KL) ÷ 生産量 (KL) × 100

水源涵養面積

約17ha
(2006年)

約6,583ha
(2017年)

Replenish率

275%
(2017年)

全体で100%以上達成！

製造工場

水源涵養面積

- | | | | |
|---------|---|---|---------|
| 1 蔵王工場 | — | A | 235ha |
| 2 埼玉工場 | — | B | 1,545ha |
| 3 岩槻工場 | — | | |
| 4 茨城工場 | — | C | 1,000ha |
| 5 海老名工場 | — | D | 1,476ha |
| 6 多摩工場 | — | E | |
| 7 白州工場 | — | F | |

- 水源域 (目標達成)
水源域 (目標未達)



水源域での活動を紹介します！



Action! 01 蔵王工場

水源涵養の連携と協力に関する 包括協定を締結

2017年3月、蔵王工場は、宮城県蔵王町、白石蔵王森林組合、円田生産森林組合と水源涵養の連携と協力に関する協定を締結しました。本協定は、緊密な相互連携と協働による活動を通じて蔵王の豊かな水を育む森林や農地を保全・再生し、水の恵み豊かな地域づくりを目指すものです。あわせて、森林資源の保全と環境体験学習の場を提供することを目的に2006年から実施している、コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトの活動を推進していきます。現在までに四季折々の広葉樹苗を計10,200本植樹しています。

「CCBJIと協働した森林保全活動によって、蔵王の元気な森林と豊かな水を育み、地域社会に貢献できることは私たちの誇りです。活動を末永く継続し、



(上) 2017年6月に開催した「森に学ぼう」プロジェクトで子どもたちと一緒に植樹する村上 英人蔵王町長

(下) 白石蔵王森林組合 高橋 真人さん



次世代を担う子どもたちへ美しい自然をつなげていきたいと思っています」と白石蔵王森林組合の高橋真人さんは話します。

蔵王工場では水源域の森林保全活動に取り組み、協定締結を契機に地域のみなさまとの絆を一層深め、“蔵王の水”を守り継ぐための活動を充実させてまいります。



Action! 02 熊本工場

水源域である阿蘇草原の 野焼きプロジェクトを支援

熊本工場の水源域である阿蘇草原は22,000haと国内最大級の草原で、豊かな水の供給源として、大きな恩恵をもたらしてくれています。このかけがえのない資源を守るため、毎年、春先に行われるのが「野焼き」です。枯れ草を焼き払うことで新芽が育ちやすい土壌環境を整える野焼きは、草原の維持・再生に重要な役割を果たすとともに、涵養能力の向上にも寄与します。また、生物多様性の面でも大変意味のある取り組みです。

しかしながら、近年は高齢化や過疎化による人手不足が進み、野焼きを行う範囲が年々狭くなっていることから、草原の面積も徐々に減少しています。そこでCCBJIは、ボランティアの募集や初心者研修会などを実施している公益財団法人 阿蘇グリーン



(上) 公益財団法人阿蘇グリーンストック 桐原 章さん

(下) 2018年3月に行われた「野焼き」の様子

ストックを支援しています。

「活動支援に大変感謝しています。これ以上草原が減少しないように、啓発活動などをともに継続していただけたら」と専務理事の桐原章さん。「阿蘇の自然環境と一緒に守り、未来につなげていく」。その想いとともに、10年、50年、100年先を見据えて、支援を続けていきます。

環境経営の推進

私たちは「環境に関する基本原則」および「環境に関するポリシー」を以下のとおりに定め、CCBJHグループ一丸となって環境経営を推進しています。

環境に関する基本原則

私たちは、事業活動に欠かせない水を含めた自然資源を有効活用し、地球環境を持続可能な形で次の世代へ引き継いでいくことを重要な使命と捉えています。そのために、環境負荷の低減と事業の成長を

両立するイノベーションにより地球環境の保全を進め、地域社会における自然環境の保護と環境啓発を通じて、地域社会との共創価値（CSV）を実現します。

環境に関するポリシー

私たちは、環境に関する以下のポリシーに基づいて事業活動を行います。

1. 環境負荷の低減

製品のライフサイクル、すなわち原材料の調達から生産・物流・保管・販売・回収やリサイクルを通じて環境負荷の低減を図ります。また、新製品の開発やサービスの導入、サプライヤーの選定等においても、環境負荷を考慮します。

2. 水資源の保護

豊かな水資源を次世代へ引き継ぐため、製造に使用する水の削減や適切な処理に努め、さらに地域社会との協働を通じた水資源保護に取り組みます。

3. 気候変動の緩和

気候変動の緩和に貢献するとともに、私たちの事業の持続的な成長につなげるため、事業全体にわたる温室効果ガス排出量を削減する施策に取り組みます。

4. 資源の効率的利用

資源が持続的に循環する社会を実現し、水やエネルギーなどを効率的に利用するため、適切な経営資源を投入します。

5. コミュニケーション

地域社会をはじめとするステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、それぞれのニ

ズに応えることを目指し、常に周りから信頼され期待を上回る企業として行動します。

6. 環境啓発

地域の方々、そして私たちの事業活動に関わるすべての人の環境意識を向上するため、さまざまな教育・活動の機会を提供します。また、環境保全や清掃活動等にも積極的に参加します。

7. 環境パフォーマンスの向上

常に先を見据え、環境目標を定期的かつ必要に応じて見直し、環境パフォーマンスの継続的向上に取り組みます。

8. 法令遵守

法令・協定の遵守はもとより、The Coca-Cola Companyの要求事項であるKORE*など、より厳しい自主基準を設定し、これを遵守します。

* コカ・コーラ社製品のライフサイクル全体に渡る「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」の4側面に関する独自のマネジメントシステム

9. 付則

このポリシーは2018年1月1日から制定実施します。

気候変動緩和に向けて

環境負荷の低減と事業の成長を両立させることが企業における持続的成長の基本要件であるとの考えのもと、調達部門、製造部門、物流・輸送部門、販売部門までを網羅した事業全体での気候変動緩和への貢献を目指し、地球温暖化ガス排出量を削減する活動に取り組んでいます。

自動販売機の ノンフロン化率



約68%

販売機器のエコ化推進

自動販売機、クーラー、ディスペンサーといった販売機器の消費電力量削減やCO₂排出量削減に向けて、環境負荷低減機材の開発・導入を進めています。

2013年から展開している「ピークシフト自販機」は、日中に冷却用の電力を使わず夜間にシフトすることで、日中の消費電力を最大95%削減することが可能です。また、最長16時間もの間、冷却用の電力を完全に停止しても、24時間いつでも冷たい商品を提供できる省エネ仕様です。

また、CCBJグループが展開している機材において、商品冷却に使用されるフロン類（冷媒）からの脱却は地球温暖化防止に向けた重要な課題です。2020年までに市場に導入されるすべての自動販売機をノンフロン化する計画を進めています。

製造部門での取り組み

各工場では、エネルギー効率向上につながる新しいプロセスや最新技術を積極的に採用しています。ひとつのエネルギー源から電力と熱を同時に生み出すことができるコージェネレーションシステムや、エネルギー損失を最小限に抑えて最大限有効活用できる断熱・熱交換システムの導入、重油から天然ガスへの燃料転換といった施策を進め、製造工程で発生する温室効果ガスの削減に努めています。



ピークシフト自販機

物流部門での取り組み

工場間や倉庫間の拠点間輸送については、車両の大型化、積載率の改善およびモーダルシフトの取り組みを加速させ、輸送の効率化を進めています。

加えて、営業現場においては、エコドライブの徹底および車両買替時にハイブリッド車など低燃費車両への入替や車両の小型化などに取り組むことで、グループ全体で燃料使用量の削減、すなわちCO₂削減を図っています。



循環型社会に向けて

製品のライフサイクル、すなわち原材料の調達から生産・物流・保管・販売・回収やリサイクルを通じて、環境負荷の低減を図っています。製造に伴い発生する廃棄物の削減や綿密な在庫コントロールによる製品廃棄ロスの削減、空容器リサイクル率の向上、環境に優しい容器の採用など、さまざまなチャレンジを進めて持続可能な社会の発展に貢献します。

工場廃棄物のリサイクル率



99.94%

工場廃棄物のリサイクル

製造に伴い発生する廃棄物の分別・リサイクルをすべての工場で推進し、継続してゼロ・エミッション（全廃棄物リサイクル率99%以上）を達成しています。中でも発生量の大部分を占めるコーヒーがら、茶がらは、肥料や飼料として再資源化率100%を実現しています。例えば、蔵王工場で製造している「爽健美茶」の工程で排出された茶がらは、蔵王酪農センターのナチュラル

チーズ製造過程で出た乳清などを混合し、「蔵王爽清牛」の飼料（エコフィード*）として生まれ変わっています。

※ 食品残渣を利用した家畜の飼料のこと。飼料自給率向上の観点から農林水産省が積極的に推進している。

空容器・自動販売機のリサイクル推進

空容器回収ボックスから回収したスチール缶、アルミ缶、ガラスびん、PETボトルなどは、分別して容器別に再資源化しています。老朽化などで廃棄対象となる自動販売機も再資源化しており、フロン類の適正な回収を実施しています。

2018年1月、日本コカ・コーラより「容器の2030年ビジョン」が発表されました。コカ・コーラシステムの一員として、今後は同ビジョンのもと、廃棄物ゼロ社会を目指した取り組みを一層強化していきます。

容器の2030年ビジョン



2030年を目標年とする、容器の新たなビジョン。

これは2018年1月に米国のザ コカ・コーラ カンパニーが発表した、廃棄物ゼロ社会の実現を目指す「グローバルプラン」に基づくもので、「リサイクルPETおよび植物由来PETの採用」「回収・リサイクル推進」「地域の美化」の3つを活動の柱としています。

サステナブル・パッケージの拡大

コカ・コーラシステムでは、「環境にやさしく、使いやすい」という考えのもと、「サステナブル・パッケージ（持続可能な容器）」という世界共通のコンセプトで容器の開発、導入を進めています。

飲んだあとにしぼりやすい「ecoるボトル しぼる」、つぶしやすさと注ぎやすさを両立させた大型PETボトルの「ペコらくボトル」などを導入し、環境負荷低減と省エネの両立を図っています。また、2020年までにすべてのコカ・コーラ社製品に植物由来の原料を使用し

たPETボトル、またはリサイクルPET樹脂を使用したPETボトルを採用することを目指しています。

しぼってポイ！



ecoるボトル
しぼる

つぶしやすい！
そそぎやすい！

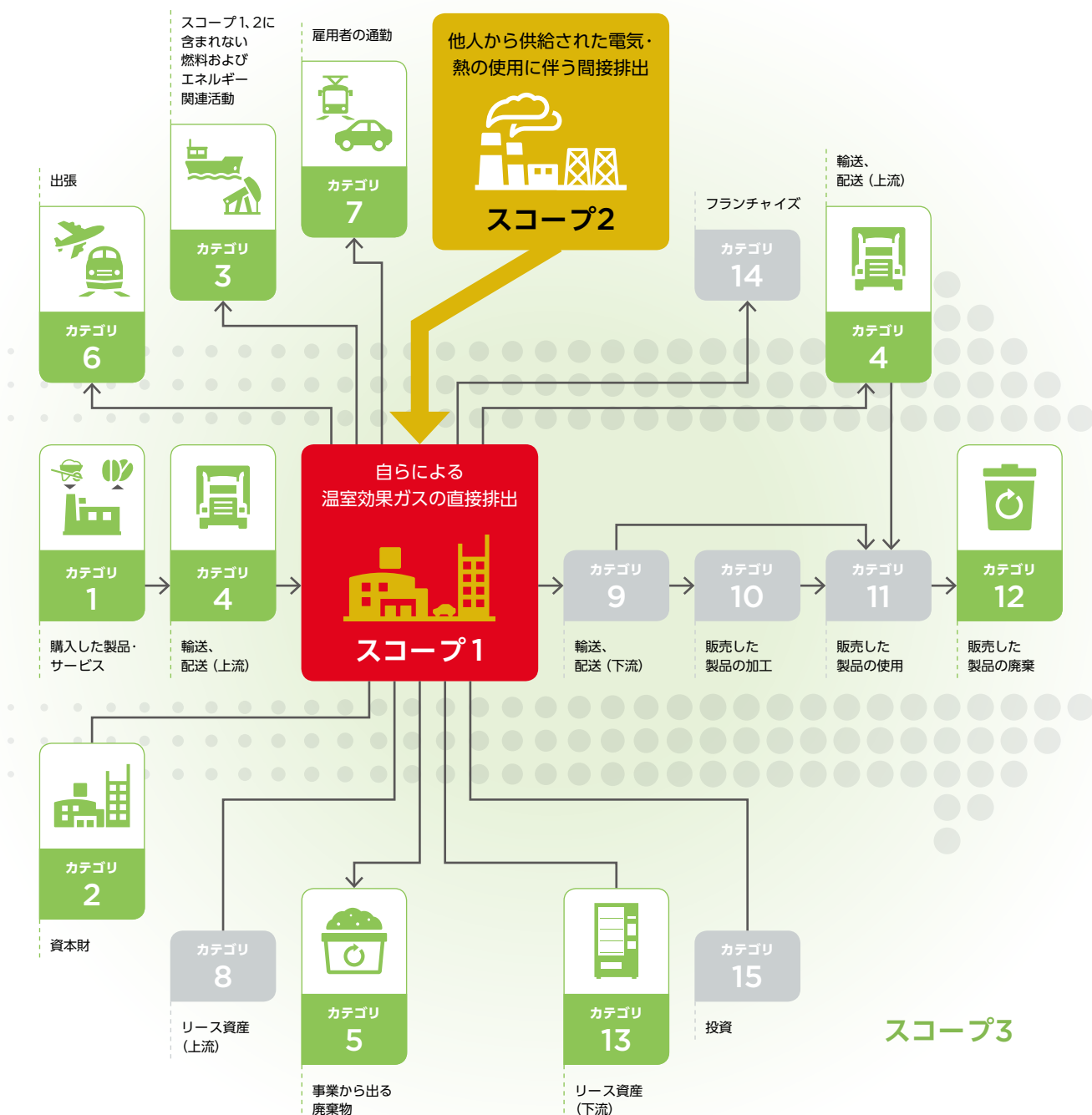


ペコらくボトル

CCBJIグループのCO₂排出実績

事業活動を行うにあたり、気候変動の緩和を考慮することは非常に重要な課題です。二酸化炭素（CO₂）に代表される温室効果ガス排出量を「見える化」することによって、多くのステークホルダーとともに、温室効果ガスの排出実態および対策情報などを把握・共有し、削減につなげるコミュニケーション手段としています。

CCBJIグループに関わるスコープ1、2、3の排出源



※ 出典 環境省・みずほ情報総研「サプライチェーン排出量の算定と削減に向けて」
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_20180322.pdf

CO₂排出実績 (2017年)および算定方法

スコープ		排出実績 (t-CO ₂)	算定方法	
			活動量	原単位
スコープ1	自らによる温室効果ガスの直接排出	378,273	オフィスや営業拠点、工場、輸送などの燃料使用量	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく
スコープ2	他人から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出	188,746	オフィスや営業拠点、工場などの電気・熱の使用量	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく。ただし、電気の排出係数は一律0.491kg-CO ₂ /kWhを採用
スコープ	カテゴリ	排出実績 (t-CO ₂)	活動量	算定方法 原単位
スコープ3	1 購入した製品・サービス	1,138,621	原材料・資材の調達量 (重量ベース)	The Coca-Cola Company による Emissions Factors に基づく
	2 資本財	78,742	有形固定資産額の当年度増加額 (純額)	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された資本財の価格あたり排出原単位
	3 スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	168,651	燃料・電気・熱の使用量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された燃料調達時の排出原単位
	4 輸送、配送 (上流)	28,810	外部委託の輸送による燃料の使用量	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく
	5 事業から出る廃棄物	18,061	廃棄物の重量もしくは費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	6 出張	4,601	従業員の出張に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された交通費支給額あたり排出原単位
	7 雇用者の通勤	6,075	従業員の通勤に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された交通費支給額あたり排出原単位
	8 リース資産 (上流)	該当なし	—	—
	9 輸送、配送 (下流)	該当なし	—	—
	10 販売した製品の加工	該当なし	—	—
	11 販売した製品の使用	該当なし	—	—
	12 販売した製品の廃棄	6,661	容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出などの算定のための排出原単位データベース (Ver.2.4)に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	13 リース資産 (下流)	294,184	弊社販売機材 (飲料自販機など)の電力使用量	温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく。ただし、電気の排出係数は、一部の地域につき一律0.491kg-CO ₂ /kWhを採用
	14 フランチャイズ	該当なし	—	—
	15 投資	該当なし	—	—
スコープ3の合計値		1,744,405		



2017年
活動報告



挑戦 3

コミュニティとの 連携を強化する

スポーツの力で地域を明るく

地域とともに歩む企業として、私たちは共創価値の実現を目指し、事業を通じた地域経済の活性化に貢献するとともに、コミュニティの抱える課題を常に意識して、さまざまな支援活動に取り組んでいます。

スポーツを通じての支援活動はそのうちのひとつです。中でも、カンパニースポーツである「ラグビー」と「ホッケー」の振興に力を入れています。男子は「コカ・コーラレッドスパークスラグビー部」、女子は「コカ・コーラレッドスパークスホッケー部」として、それぞれジャパンラグビートップリーグ、ホッケー日本リーグに所属し活躍しています。両チームは、日本

のトップレベルのリーグにおける活躍を通して多くのみなさまに感動をお届けすることはもちろん、各地でのスポーツクリニック開催やイベントへ積極的に参加するなどして、明るく活気のある地域づくり、誰もが活動的で健康的に過ごせる社会づくりの一助を担っています。

健やかな心身を育むだけでなく、元気や勇気、活力、夢を生み出したり、人と人とを結ぶ絆となったり、スポーツには底知れぬ力があります。そんなスポーツの力を借りながら、今後はさらに交流の機会と場所を広げ、地域にハッピーをお届けしていきます。



3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任

私たちの目指すところ

- スポーツ・文化活動振興や
青少年の健全育成に向けた活動を通じて、
地域社会の課題解決に寄与します。
- 工場見学プログラムを通じて、
製造工程や食品安全への取り組みなどをわかりやすくお伝えし、
あらゆる世代の方々に信頼されるパートナーを目指します。
- カンパニースポーツで多くの人々へ感動を届けるとともに地域に密着した
活動を展開し、子どもたちの健全育成や活気ある地域社会の実現に貢献します。

取り組むべき活動内容

地域社会の活性化を目指した
さまざまな活動

工場見学を通じた
ダイレクト・コミュニケーション

カンパニースポーツを通じた
地域社会への貢献

ステークホルダーのみなさまとの コミュニケーションを大切に

CCBJIは、工場見学をお客さまや得意さまをはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまとのダイレクト・コミュニケーションの拠点と位置づけ、さらなる情報発信の強化を図っています。みなさまに信頼されるパートナーを目指し、工場見学を通じてコカ・コーラ ボトラーズジャパンの取り組みを発信しています。

工場見学参加者数



約17万人

工場見学の推進

CCBJIは、工場見学をみなさまとの貴重なコミュニケーションの機会と捉え、蔵王（宮城県）、多摩（東京都）、東海（愛知県）、京都（京都府）、小松（愛媛県）、

えびの（宮崎県）の6工場で実施しています。

実際の製造ラインをご覧いただきながら製品ができるまでの工程をガイドがわかりやすく説明するとともに※、コカ・コーラ社製品の高い品質を保つための厳しい品質管理基準、環境負荷低減や地域における取り組みについてお伝えしています。より多くのお客さまにコカ・コーラ社製品に親しんでいただけるよう「コカ・コーラ」の歴史や新製品を含めた製品ラインナップの紹介も行っています。2017年は約17万人のお客さまにご来場いただきました。

（各工場の工場見学のご案内はP45をご覧ください。）

※ えびの工場は自由見学です。

Action! 01

東久留米 魅力体感ツアー！

2017年7月9日、多摩工場（東京都東久留米市）をメイン会場に「第2回 東久留米 魅力体感ツアー！～コカ・コーラ工場&東久留米の農作物を収穫体験～」を東久留米市の協力をいただいて開催しました。当日は並木克巳東久留米市長から歓迎のメッセージをいただいてツアーをスタート。工場見学のあとは、東久留米市の農家さんの指導のもと、畑で特産品の農作物（トマトとトウモロコシ）を収穫していただきました。天候にも恵まれ、参加された70名のみなさまに魅力あふれる東久留米市を楽しんでいただきました。



工場見学で対話の機会を増やす

あらゆる世代の方々へコカ・コーラ社製品やCCBJIの取り組みを楽しみながら理解していただくために、タブレット型端末などを活用した体験型コンテンツを取り入れた工場見学を実施しています。今後もコカ・コーラ社製品の製造工程や食品安全への取り組みなどをわかりやすくお伝えし、みなさまに安心してコカ・コーラ社製品を手にとっていただけるよう取り組んでまいります。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン (株)
総務本部 コーポレートコミュニケーション統括部
CSV推進部 地域共生課
村松 恭子

Action! 02

Let's Enjoy 英語で環境 2017

2017年3月25日、京都工場（京都府久世郡久御山町）を会場として、京都外国語大学の学生たちの協力のもと、「Let's Enjoy 英語で環境 2017」を実施しました。プログラムの内容は、学生自らが考案し、英語に親しみながら各国の環境問題について学べるというものです。当日は午前・午後各50名の親子が参加し、環境に関するクイズ、クロスワードやかるたなどのアクティビティーを通して環境について楽しく学んでいただきました。



2017年のコミュニティ活動

スポーツ振興、地域社会の活性化、青少年の健全育成や環境教育の促進を目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も「地域における社会課題」に向き合い、共創価値の実現に向けて活動してまいります。



参加者数
957名

コカ・コーラレッドスパークス スポーツクリニック

レッドスパークスは、子どもたちの「体を動かす」機会の創出や技術力向上・安全性の高い指導教育を目的として、ラグビーおよびホッケーの「スポーツクリニック」を開催しています。2017年は8回開催し、地域の子どもたちにスポーツの楽しさを伝えました。



来場者数
1,743名

クラシックコンサート

音楽を通じて豊かな社会づくりに貢献するため、本格的な「クラシックコンサート」を開催しています。2017年は福岡市で開催し、幅広い年代のお客さまにご来場いただき、質の高いクラシックの音色を堪能していただきました。

ファミリーミュージカル

次世代を担う青少年の健全な育成を目指し、夏休み期間中に親子で楽しめる「ファミリーミュージカル」を開催しています。2017年は、現在の社会課題である食の貧困・孤食をテーマにした「じいじのふしぎなレストラン」を大阪府、広島県、福岡県の3会場で開催し、ご来場いただいた地域のみなさまに楽しいひとときを過ごしていただきました。



来場者数
4,763名

©日高 仁



参加者数
610名

野球教室

四国各地の少年野球チームを対象に、四国アイランドリーグplusの選手やコーチに協力をいただき、「コカ・コーラ野球教室」を開催しています。この教室では、ボールの握り方、投球フォーム、バットの構え方など、野球の基本動作に加え、チームワークやスポーツマンシップの大切さについてもわかりやすく伝えています。

環境美化活動

地球環境保全を重要な課題のひとつとして認識し、オフィス周辺の道路・公共の場所などで清掃活動を定期的に実施しています。2017年は、自治体が主催する清掃活動などにも参加し17の地域で環境美化活動に取り組み、近隣企業や地域のみなさまとコミュニケーションをとりながら、街をきれいにしました。



活動地域
17

サマースクール

夏休み期間中、地域の子どもたちとその保護者を対象に「サマースクール」を開催しています。2017年は、蔵王、多摩、東海、えびのの4工場で開催しました。迫力ある製造ラインの見学やかけがえのない水を育む森の大切さについて学んだり、また、えびの工場では、豊かな自然環境の中でさまざまなアクティビティを通じて体験型学習を実施しました。



参加者数
1,786名



卒塾生
863名

市村自然塾 九州

「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念として子どもたちの健全な成長を支援しています。農作物の栽培、収穫の作業や団体生活を通じて、自主性や社会性を身につける場を提供しています。小学4年生から中学2年生までの塾生たちは、8カ月にわたって週末の2泊3日を仲間たちや世話人とともに過ごし、佐賀県鳥栖市の豊かな自然の中でさまざまな活動を体験しました。

社員に関する情報とステークホルダーからの声

社員の健康や働きがいを高める

社員とともに持続的に成長することを目指し、最も貴重な財産である人材に関する取り組みを進めています。具体的には、公平で公正な人事制度の導入、社員が成長し続けることができる人材育成制度の設計、多様性と多面性に満ちた人材が活躍する職場環境の構築など、さまざまな視点で社員が働きがいをもち活躍できるような環境づくりに努めています。

人事制度

CCBJIグループでは、一貫性のある公平で公正な制度導入による一体感の醸成と、グループの持続的な成長を促すことができる人材の維持・確保を目的として、2018年4月にグループとして統合した人事制度（等級・評価・報酬・福利厚生）を導入しました。

この新人事制度は、企業理念である「THE ROUTE」およびグループの目指す方向性である「成長志向」「ひとつの会社・ひとつの経営」「全体最適」を踏まえて、人事制度の基本方針を掲げています（右図）。

役割・成果主義により、社員のモチベーションアップにつなげるとともに、組織や個人の成長を促していきます。また、福利厚生においては社員が安心して働き続けることをサポートするプログラムを提供しています。

人事制度

THE ROUTE

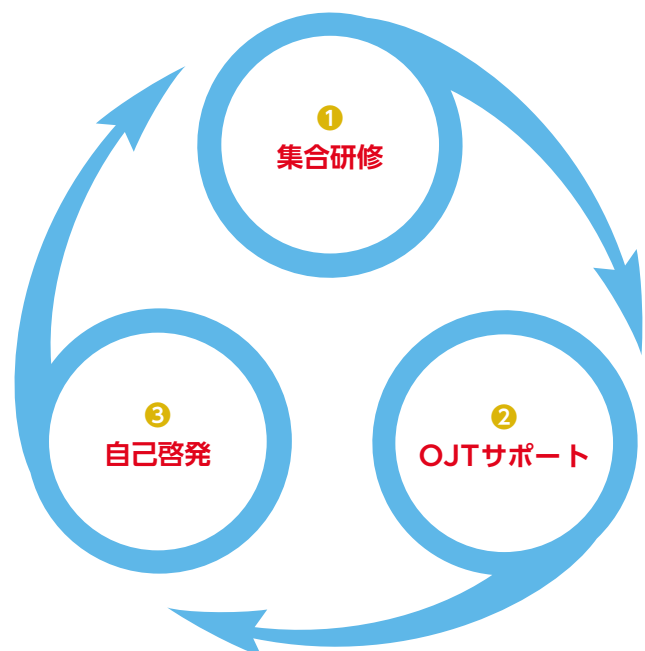
制度の基本方針

- 役割・成果に応じた等級・報酬制度とし、公平・公正に処遇する
- 顧客へ価値・サービスを提供する最前線社員のモチベーションアップにつながるような等級・報酬体系とする
- CCBJIグループの一員として、やりがいを持って安心して働き続けるための魅力ある福利厚生制度を構築する

CCBJIの目指す方向性

人材育成（キャリア開発）

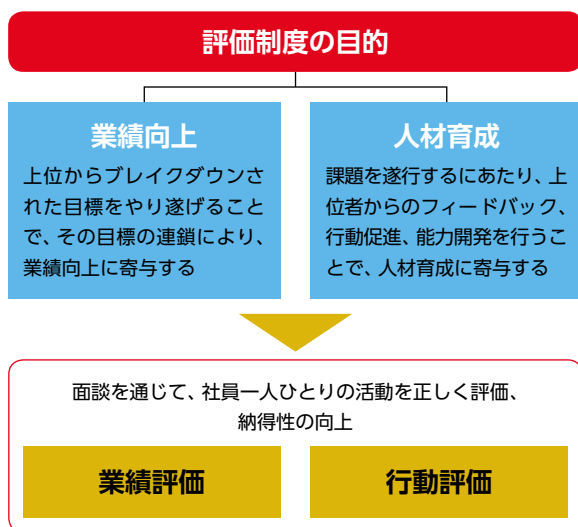
人材育成を全社横断的な教育（社員の成長・ステップに合ったスキル・知識の習得）と専門的な教育（各部門での業務遂行に必要なスキル・知識の習得）に大別し、各担当部門がテーマに沿ったトレーニングプログラムを企画、実行しています。教育の手法としては、①受講者の知識・能力向上につながる集合研修、②人材育成のキーマンである所属長に対するOJTサポート、③社員が自分の環境に合わせて自ら学べる（自己啓発）環境の整備を実施しています。



人材育成（評価制度）

CCBJHグループの評価制度は、「業績向上」と「人材育成」を目的としています。制度は、担当業務における課題の達成度を評価する「業績評価」と、社員として相応しい行動を評価する「行動評価」の2つの軸で構成されています。社員一人ひとりの活動を正しく評価し、評価に対する納得性を高めるために、年間を通じて上司とメンバーが定期的に面談を実施しています。

今後も、社員が継続的にパフォーマンスを発揮し、それに対して会社が適切に報いる取り組みを推し進めていきます。



人権啓発推進への取り組み

人権の尊重は企業活動の基本であり、私たちが事業を行っている地域社会の持続可能性を実現するために人権ポリシーを定め、人権尊重の徹底を図るためにさまざまな人権問題に関して、積極的に啓発活動を実施しています。啓発活動では人権尊重に向けての理解を深め、感覚を養うため、階層別研修やe-ラーニングおよび社内ネットワークを利用した情報共有などの取り組みをしています。人権問題を自らの課題として受け止め、他人を思いやり、常に相手の立場に立った行動ができる社員育成および活力ある健全な職場環境づくりを目指していきます。

ダイバーシティ(インクルージョン)の推進

CCBJHグループでは、社員一人ひとりの人権や個性を尊重し、多様な価値観やアイデアを積極的に取り入れ革新を生み出し続けることが重要であるとし、ダイバーシティ推進に積極的に取り組んでいます。

基本理念

CCBJHグループは多様性を認め建設的な議論を行いながらダイバーシティを推進することで品格を備えたエクセレントカンパニーを目指します。

中長期ビジョン

CCBJHグループは、社員一人ひとりの多様性を尊重することで、性別、年齢、障がいの有無、国籍などの属性によらず、すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供します。そのことにより、変革・革新を生み出し、価値創造につなげ、競争力を高めた品格を備えたエクセレントカンパニーとなります。

2020年までの取り組み方針

人権尊重を基盤とし、女性および障がい者の活躍推進を活動の柱とします。

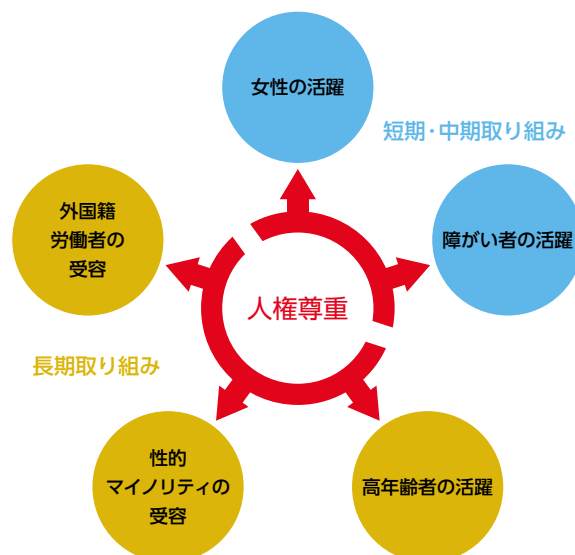
女性の活躍について

ダイバーシティの属性のひとつである女性の活躍を推進することで社内のあらゆる場面で女性社員が活躍し、多様な価値観・視点が事業活動全般に反映されることを目指します。

障がい者の活躍について

グループ全体の障がい者雇用を促進するために、障がい者雇用課を設置し、積極的な活動を展開しています。

CCBJHグループダイバーシティ推進



スペシャル座談会

一人ひとりのライフキャリアを考える

CCBJHグループは、ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、社員一人ひとりの人権や個性を尊重し、認め合う企業風土を醸成しています。性別や国籍などに関係なく、すべての社員が能力を最大限に発揮できる環境で育まれた人材の多様性・多面性は、私たちの何よりの強みです。異なるバックグラウンドを持つ社員が集まり、自身のライフキャリアについて語りました。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株) 左から

ビジネスシステム本部
アプリケーションマネジメントサポート課
トマ・モルロ

SCM本部
明石工場 製造課
片岡 邦支

総務本部
障がい者雇用課
高嶋 活士

営業本部
広域法人開発第一営業部 営業一課
入部 梓

ライフキャリアを充実させ、 実り豊かな人生を

高嶋 私は馬術競技でTOKYO 2020を目指しているアスリート社員です。仕事は主に社員データの管理を任されています。トレーニング時間を考慮した勤務形態で出勤日が少ないため、周りとのコミュニケーションを積極的にとり、関係部署への確認を怠らずに業務を進めることを意識しています。仕事とトレーニング

で忙しい毎日ですが、オフは娘とたくさん遊んでリフレッシュ。休日は家族であちこち出かけて楽しく過ごしています。



“密なコミュニケーションと関係部署への入念な確認。確実な仕事をするために心がけています。”

入部 大手鉄道グループの新規取引先開拓を担当しています。子どもがまだ小さいので、現在は時短勤務を選んでいますが、心がけているのは、意識して時間をつくり、有効に使うこと。時間のロスが出ないようにスケジュールを工夫したり、仕事は常に前倒しで終わらせる、質問をするときはより具体的に伝えるなど、課のメンバーの協力も得ながら、時間に制約がある中で成果を出せるよう心がけています。プライベートは、高嶋さんと同じで子ども中心ですね。仕事の間は会えない分、一緒にいるときは成長をひとつでも多く見つけたいですから。



“限られた時間で
成果を出すためには、
意識して時間をつくり、
有効に使うことが鍵。
スキマ時間も活用して
仕事を進めています。”

片岡 明石工場で、PETボトルを成形するブロー機のオペレーションを担当しています。何よりも品質が最優先。厳しい品質管理体制のもと、「当たり前前」のことを当たり前にするをモットーに、不良品を出さないよう常に気を引き締めて業務にあたっています。それから、不規則な交代勤務なので、体調管理には人一倍気をつけています。朝は必ず日差しを浴びる、夜勤明けは十分睡眠をとるといったことを心がけ、体のリズムをつくるよう努めています。休みの日は、家でゆっくりすることが多いですが、数力月前からジムへ通い始めたので続けていきたいし、ペットを飼うのもいいですね。

モルロ 社内ITシステムのアプリケーション管理やシステム全般の保守などのマネジャーとして活動しています。良い仕事をするには心身ともに元気であることが不可欠と考えており、日頃から食事に気をつけ、マメに体を動かすことを意識しています。またマネジャーの立場から、チームメンバーに良いコンディションで働いてもらえるよう、各々の働き方、能力、個性を尊重しながら仕事を振り分けるようにしています。ハードワークで平日はプライベートな時間をあまりとれませんが、休日はスイッチを切り替えて好きなことを存分に楽しみます。モーターサイクリング、スキューバダイビング、ハイキングなどで自然を満喫したり、美術館やギャラリーめぐりをして英気を養っています。

さらなる活躍に向けて

高嶋 今後の目標は、まずは2018年の世界馬術選手権大会に出場すること。その次はTOKYO 2020です。これから海外遠征を含めて試合にたくさん出場し、成績を残していきたいです。その一方で、もちろん仕事もしっかりやっていきます。

入部 入社以来ずっと営業職で経験を積んできましたが、まだまだ引き出しが少ないと感じています。どんなお客さまとも、いろいろな話ができるようスキルアップしたいです。プライベートでは、子どもが成長して自分の時間がとれるようになったら、フルマラソンにチャレンジしたいですね。

片岡 現在担当しているのは、これまでずっと男性が担当してきた機械で、私が女性第1号のオペレーターです。自分の仕事が今後女性に任せられるかどうかの試金石にもなるので、大変やりがいを感じています。これからも後輩の女性社員たちの道筋をつくる仕事にチャレンジしていきたいです。



“後に続く女性社員の
手本となれるように、
新しいことにどんどん
チャレンジしたいです。”

モルロ 「女性第1号」っていい響きですね。CCBJHグループでは女性の活躍を推進していますが、今後は一層活動の幅を広げていかなければと思っています。たとえば、マネジメントポジションに就いている女性はまだまだ少ない状況。能力を持った女性社員がマネジャーにステップアップできる仕組みづくりなどをサポートしていきたいです。



“女性の活躍推進の活動を
もっと広げていきたいです。
さまざまな面から
サポートしていきます。”

労働安全衛生の取り組み

「安全と健康はすべてに優先する」という考えのもと、CCBJIグループで働くすべての人の安全と健康を守るとともに、企業としての社会的責任を果たすことが、事業継続の根幹と位置づけ、相互信頼と実践に基づく安全文化の創造と醸成に取り組めます。

労働災害管理・車両事故管理

災害・事故を未然に防止するために、「不安全行動の排除」「不安全状態の除去」をキーワードに活動します。職場全体での安全意識の向上や社員一人ひとりの安全行動・安全運転の定着への取り組みを行い、各職場での災害ゼロ・事故ゼロを推進します。

健康管理

心と体の両面から社員の健康の維持・増進に努め、健康保険組合と協働して「疾病の未然予防・重症化防止」「健康な心身づくり」を推進します。

働き方改革

CCBJIグループでは、社員一人ひとりが能力向上を図り、生産性と業務品質を高めることでワークライフバランスを充実させるとともに、社員が健康でいきいきと働くことができる職場を実現するために、積極的に働き方改革に取り組んでいます。具体的には、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の整備や、在宅勤務やサテライトオフィスといった働く場所にこだわらない多様な働き方の実現、勤務終了後に一定時間以上休息時間を確保する勤務間インターバルの導入といった仕組みの整備にあわせ、早帰りや休暇取得促進といった社内風土改革をグループ全社で進めています。

CCBJIグループで展開（および展開予定）している各種制度／施策

- フレックスタイム制度
- 直行直帰
- 在宅勤務／サテライトオフィス
- ノー残業デー
- 勤務間インターバル
- 子の看護休暇／介護休暇（有給）

従業員の状況（2017年12月31日現在）

従業員数※1	男性	17,021名
	女性	3,613名
平均年齢		42.4歳
平均勤続年数		17.7年
管理職任用者数		2,052名
女性管理職任用者数		79名
女性一般職者数		1,627名
育児休業制度利用者数（累計）	男性	2名
	女性	132名
非正規雇用からの社員登用者数（2017年通年）		327名
定年退職者再雇用者数		38名
新卒3年後の定着率※2		89.8%
介護休業取得者数		5名

障がい者雇用率※3	CCW	2.13%
	CCEJ	1.83%
	四国CCBC	2.56%
	CCWV	2.09%
	CCWSS	2.41%
	FVEJ	2.32%
	WEX	1.18%
	NNB	1.80%
	FVC	0.00%
	CCWES	2.97%
	CCWP	2.18%
	CCBSC	1.48%
	CCCMC	1.60%

※1 従業員数は派遣社員、インターン（その他）を除くすべての従業員区分が対象。

※2 2015年度の新卒採用者数から、2017年末までの退職者数を除いた現在の在籍割合。

※3 障がい者雇用率については、2017年度における旧事業会社ごとに掲載しており、旧事業会社ごとに管轄の公共職業安定所長あてに提出している「障害者雇用状況報告書」（2017年6月1日）に基づいています。旧事業会社の名称は次のとおりです。

CCW: コカ・コーラウエスト（株）、CCEJ: コカ・コーライーストジャパン（株）、四国CCBC: 四国コカ・コーラボトリング（株）、CCWV: コカ・コーラウエストベンディング（株）、CCWSS: コカ・コーラウエストセールスサポート（株）、FVEJ: FVイーストジャパン（株）、WEX: （株）ウエックス、NNB: 西日本ビパレッジ（株）、FVC: （株）エフ・ヴィ・コーポレーション、CCWES: コカ・コーラウエスト販売機器サービス（株）、CCWP: コカ・コーラウエストプロダクツ（株）、CCBSC: コカ・コーラビジネスソーシング（株）、CCCMC: コカ・コーラ カスタマーマーケティング（株）

社外ステークホルダーのみなさまからの声

私たちはステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを重視し、それぞれのニーズに応えることがCSVの実現には不可欠だと考えています。「CSVレポート2018」では2名の社外ステークホルダーの方からご提言をいただきました。みなさまからの声を真摯に受け止め、今後の活動に活かしてまいります。



三重大学人文学部 准教授
青木 雅生 氏

経営学、経営史、研究開発マネジメント論などを専門とし、企業が社会に果たす役割を踏まえ、“よい経営”とは何かに関わって、“企業の主体性”を問いつつ、企業を通じて社会がよりよくなることを研究している。2002年立命館大学大学院経営学研究科博士課程・博士後期課程修了。博士（経営学）。2007年4月より現職。

CCBJIとの出会いは、三重県において開催されたU-29プレスト会議「ミエミライ」という企画です。これはCCBJIと特定非営利活動法人Mブリッジ、そして三重県の三者が連携して開催した企画であり、29歳以下の「アンダー29」世代が三重の幸せな未来を想い描きながらプレスト（ブレインストーミング／アイデア発想の手法）で魅力向上や課題解決のアイデアを一緒に考えていくというもの。ダイバーシティや非営利活動など3つのテーマで三重県の若者が集い語り合い182のアイデアが出ました。CCBJIが食・健康や地球環境のみならず次世代を担う若者とともに未来を育んでいこうとする先進的な取り組みだと思っています。三重大学人文学部において私が担当する経営学総論という専門科目にもゲストスピーカーとしておいでいただき、CCBJIのCSVについて学生に熱心に語っていただきました。今後大学としても協力関係を構築し、ともに未来を切り拓いていくことができればよいのではないかと考えています。



日本大学生物資源科学部
生物環境工学科 准教授
笹田 勝寛 氏

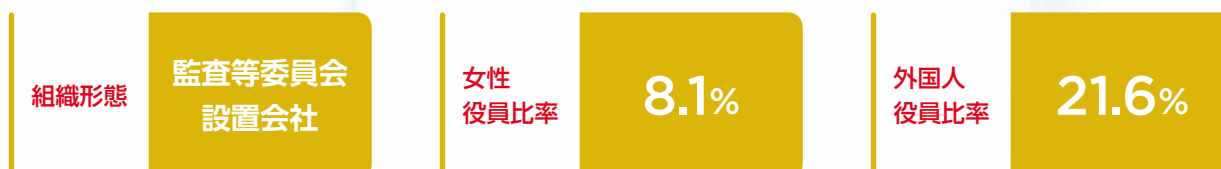
農村地域にとり残された貴重な「湿原」における水環境や植生の調査をもとに、環境の評価とその改善提案を行っている。また、環境保全型農業、耕作放棄地の積極的活用をテーマに農業・農村の振興を目的とした研究も行っている。

今日多くの企業がコンプライアンスの遵守はもちろん、CSR活動の推進という社会的責任を果たすことを注視されている中、CCBJIでの多様な社会貢献活動への取り組みに驚かされました。特に「環境」についての取り組みの中で、ボトルのつぶしやすさや植物由来のパッケージなど環境に配慮した容器開発が行われていること、次世代の環境意識者を養成する独自の環境教育活動やそのような活動をする団体への支援には感心させられました。また、水資源保護活動では山林での植林や間伐を推進されていますが、私たちが研究する水田での冬期湛水事業にも関心をいただいております。

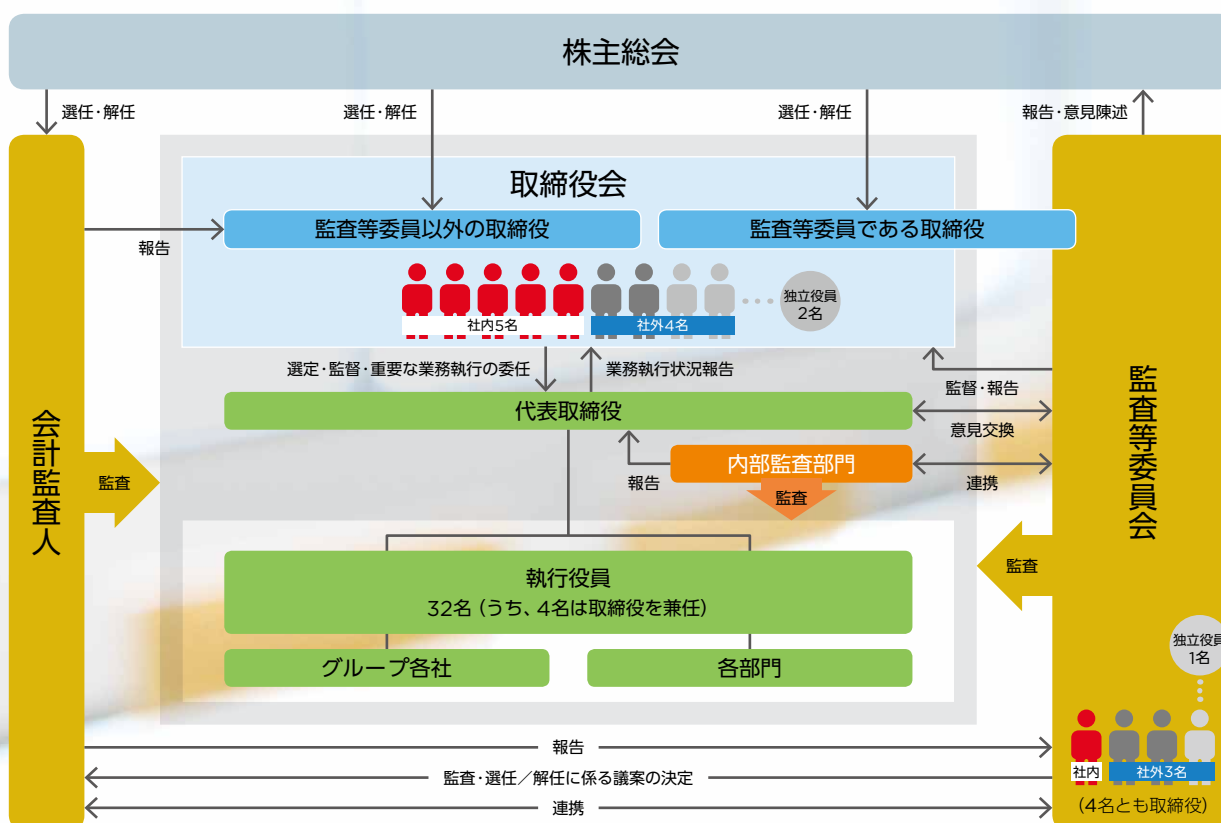
このように多岐にわたり対応できる背景には、グローバルに事業展開し古くからCSR・CSV活動に取り組んできた成果であると思っています。今後は、後を追従する新興の企業にもこれまでのノウハウなどを提供し、他の企業を支援していくことも検討していただけたらと思います。

挑戦を支えるマネジメント

コーポレート・ガバナンス体制



コーポレート・ガバナンス体制図 (2018年1月1日現在)



当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の効率性および透明性を向上させ、当社の株主価値の増大に努めることです。

当社は、ガバナンス体制の一層の強化を目指し、監査等委員会設置会社を採用しています。当社の監査を担う監査等委員会は、1名の常勤の取締役（監査等委員）に加え、3名の社外取締役（監査等委員）で構成されており、この社外取締役が過半数を占める監査等委員が、取締役会における議決権を有していること、ならびに株主総会における取締役の指名・報酬等への意見を陳述す

る権利を有していることなどにより、経営監督機能がより強化されています。

また、当社は、意思決定および経営監督機能と業務執行機能を分離すべく、執行役員制度を採用しており、重要な業務執行の決定の一部を取締役に委任することにより、取締役会において特に重要度の高い事項についての審議をより充実させるとともに、それ以外の事項について、代表取締役以下の執行役員（経営陣）による経営判断の迅速化も図っております。

倫理・コンプライアンス

企業の社会的役割や責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、社員一人ひとりが品格のある正しい行動を行ううえでの指針となる「倫理・行動規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。

当期（2017年）においては新たに制定した倫理・行動規範について、社長メッセージや所属長への説明会開催などにより倫理・行動規範を遵守することの重要性や理解促進を図るとともに、倫理・コンプライアンス通信を定期的に配信するなど倫理観やコンプライアンスに対する考え方を社員に浸透させています。また、CCBJHグループ倫理・コンプライアンス委員会を設置し、CCBJHグループにおける内部通報体制や啓発教育活動の施策決定など諸活動を推進しており、当期においては4回開催しております。なお、企業活動の中で各種法令や倫理・行動規範等に抵触するような事項および判断が困難な事項等に早期に対処できるように、専用メールや電話により直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を、社内および社外の弁護士事務所に設置するなど体制を整えています。

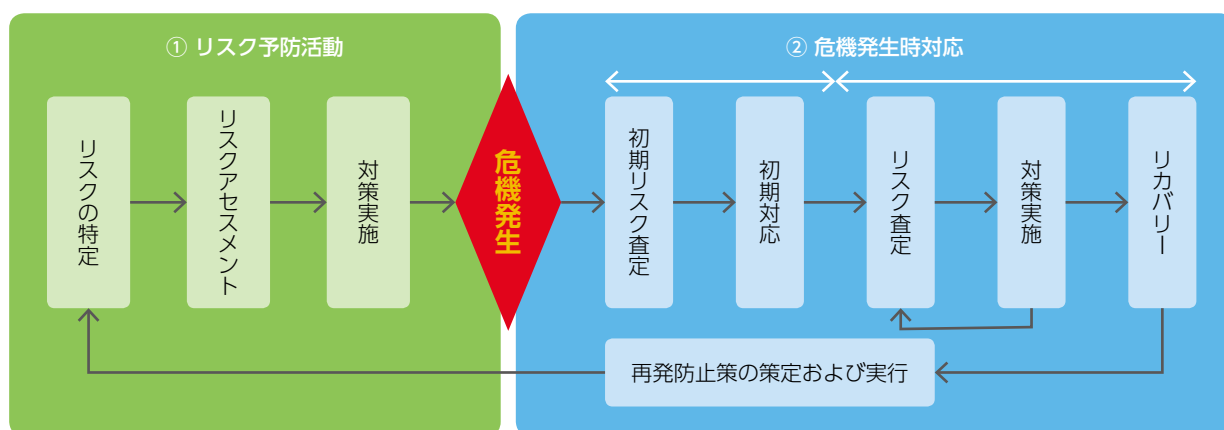
情報セキュリティ

CCBJHへの全業務およびITインフラの統合を主眼に置き情報セキュリティに関する基本ルールとして「情報セキュリティポリシー」を定め、継続的に情報管理体制を整備・強化しています。また、世界的なスポーツイベントにおける飲料供給という重要な使命のもと、増加するであろうと予測される、サイバー空間における新たな脅威に対しても、着実に対策を進めております。

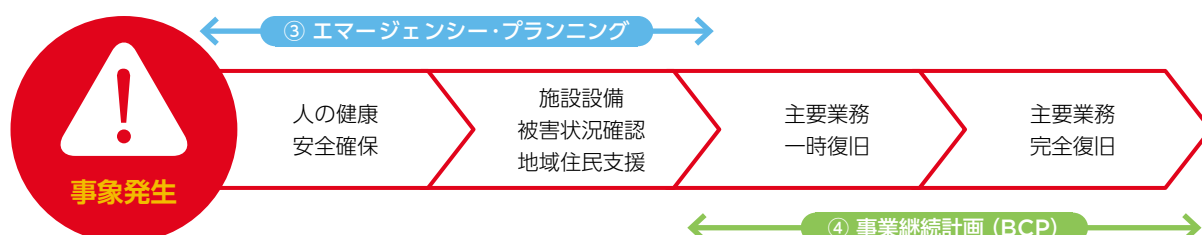
リスクマネジメント

全社的なリスクマネジメントとして、①リスク予防活動、②危機発生時対応、③エマージェンシー・プランニング、④事業継続計画（BCP）の仕組みを構築・運用しています。各々の項目については取締役会等と連動し、関連する部署、管理職、社員および取引先が自律的にリスクマネジメントを運用することができるよう、コミュニケーション、教育訓練、手順・ルール・基準の見直し、必要な経営資源の投入等を順次計画し、実行しています。

リスクマネジメント



エマージェンシー・プランニングおよび事業継続計画（BCP）



連結業績ハイライト

2017年
売上高

872,623百万円

2017年
営業利益

40,579百万円

2017年
経常利益

39,859百万円

2017年
親会社株主に
帰属する
当期純利益

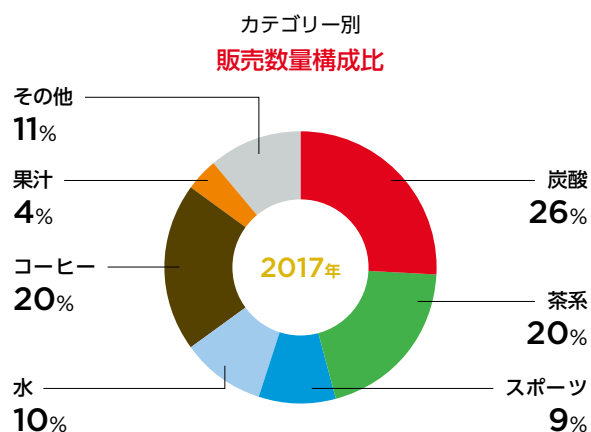
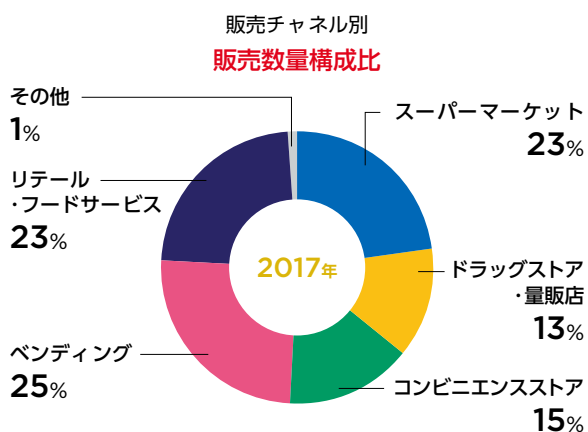
25,244百万円

2017年
総資産

883,918百万円

2017年
純資産

627,485百万円



※ 販売数量構成比は2017年1月から経営統合したものと仮定した実質業績です。

中期事業計画

Growth Roadmap for 2020 & Beyond

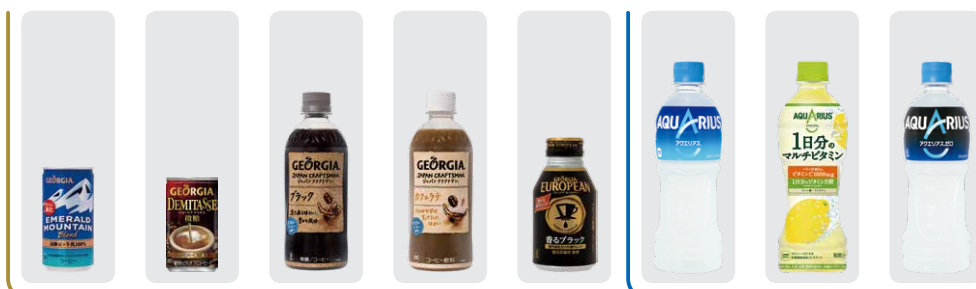
主要指標	2020年の目指す姿
売上高成長	売上高年平均成長率 +1.8% (2016年～2020年) 収益を伴う売上高成長、収益力の高い製品展開
金額シェア	販売数量シェア以上の金額シェア拡大 金額シェアが販売数量シェアを上回って拡大
トランザクション	即時消費パッケージ成長 小容量、即時消費パッケージの成長
EBITDA [※] マージン	EBITDAマージン 10%以上 事業活動を通じた堅調なキャッシュ創出
自己資本利益率 (ROE)	ROE 6%以上 バランスシートの最適化によるリターン (株主還元)の最大化

※ 利払い前・税引き前・減価償却前利益 (Earnings before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization)のこと。

主要製品ラインナップ



炭酸飲料



コーヒー飲料

スポーツ飲料



茶系飲料

果汁飲料



乳性飲料

水

フレーバーウォーター

スパークリングウォーター 特定保健用食品



機能性表示食品

エネルギー飲料

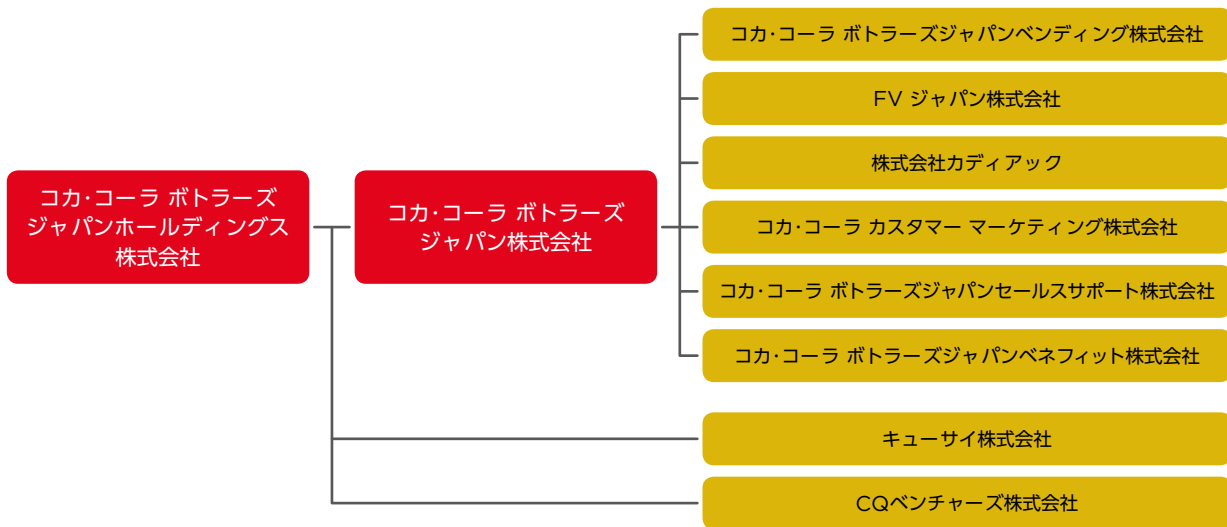
COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、COCA-COLA PLUS、コカ・コーラ プラス、GEORGIA、ジョージア、爽健美茶、そうけんびちゃ、からだ巡茶、Advance、からだすこやか茶、綾鷹、あやたか、つむぎ、KOCHAKADEN、紅茶花伝、太陽のマテ茶、AQUARIUS、アクエリウス、AQUARIUS ZERO、アクエリウス ゼロ、FANTA、ファンタ、SPRITE、スプライト、REAL GOLD、リアルゴールド、Qoo、クー、MINUTE MAID、ミニッツメイド、ILOHAS、いーろは、森の水だより、YOGUR STAND、ヨーグルスタンド、は、The Coca-Cola Company Limitedの登録商標です。CANADA DRY、カナダドライ、Schweppes、シュウェッス、Dr Pepper、ドクターペッパー、は、Atlantic Industriesの登録商標です。Glaceau、グラソー、は、Energy Brands Inc.の登録商標です。©The Coca-Cola Company

CCBJHグループの概要

会社概要

名称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
事業内容	グループ経営管理事業および資産管理事業
設立	1960年(昭和35年)12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更
決算期	12月31日
資本金	15,231百万円
代表者	代表取締役社長 吉松 民雄
上場取引所	株式会社東京証券取引所(市場第一部) 証券会員制法人 福岡証券取引所

グループ体制図



取締役一覧

代表取締役社長	吉松 民雄
代表取締役副社長 兼 最高財務責任者 (CFO)	ヴィカス・ティク
取締役	古賀 靖教
取締役	コスティン・マンドレア
取締役 (社外取締役)	吉岡 浩
取締役 (監査等委員) (常勤)	田口 忠憲
取締役 (監査等委員) (社外取締役)	三浦 善司
取締役 (監査等委員) (社外取締役)	イリアル・フィナン
取締役 (監査等委員) (社外取締役)	ジョン・マーフィー

数字で見るCCBJHグループ

売上高世界第3位[※]にして

アジア最大のコカ・コーラボトラーとなり

国内コカ・コーラシステム販売数量の約90%を担う

※ 2017年現在



従業員数

約25,000人

※ CCBJHグループで勤務する従業員および
協力会社の従業員を含む



販売エリア
(カバーエリア)

1都2府35県



年間売上高

約8,700億円



営業拠点数
(ディストリビューションセンター含む)

351箇所

※ 2017年1月現在



製造拠点

17工場



自販機台数

70万台強

※ 2017年末現在 ※ レギュラーサービス自販機含む



お客さまの数
(カバーエリアの人口・世帯数)

約5,000万世帯

約1億12百万人



年間販売数量

5.2億ケース



取り扱い店舗数
(レギュラー取引店舗)

約32万軒

※ 2017年末現在



車両台数

約16,100台

※ 2017年末現在

コミュニケーションツールの紹介

私たちは、適時・適切な情報開示を行うことにより、あらゆるステークホルダーのみなさまから正しく理解され、信頼される企業になることを目指しています。IR情報については各種IRツールで、近年注目されているESG情報（環境・社会・ガバナンスといった非財務情報）については主にCSVレポートで報告しています。また、広範な企業情報についてはウェブサイトで報告しています。

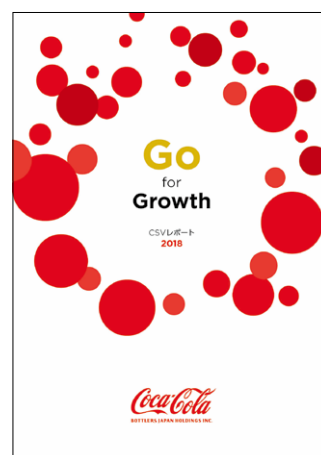


アニュアルレビュー

株主・投資家のみなさまに向けてIR情報を報告しています。



株主のみなさまへ



CSVレポート

ステークホルダーのみなさまに向けてESG情報を中心に報告しています。



コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス (株) ウェブサイト

企業情報、製品情報、IR情報やESG情報などを公開しています。

<https://www.ccbj-holdings.com/>



CSVレポートの発行にあたって

当レポートの発行にあたり、日頃から弊社を支えていただいている多くのステークホルダーのみなさまに深く感謝申し上げます。

昨年に経営統合して以来、初めてCSVレポート（環境・社会報告書）をリリースします。当レポートは2017年の取り組みを振り返りながらも本年以降さらに活動を充実させるための重要な事業活動報告書のひとつです。このレポートを多くのみなさまへお届けするとともに、「CCBJHグループならではの」活動をさらに推進してまいります。そして、CCBJHグループがCSV（共創価値）の理念に基づき、人々の健康的な生活、環境保全やコミュニティとの連携強化に寄与することで、みなさまからの信頼にお応えすることが、私たちの“成長”への原動力になると考えます。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

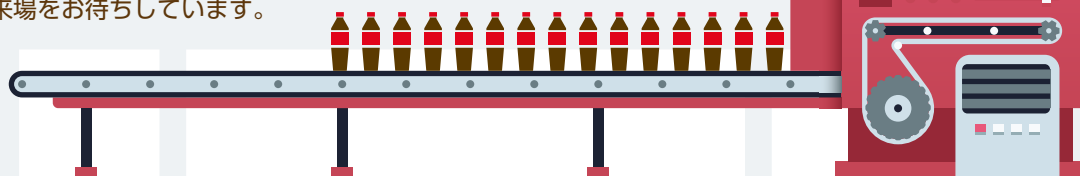


コカ・コーラ ボトラーズジャパン (株)
執行役員
コーポレートコミュニケーション統括部長
岡本 繁樹

工場見学のご案内

無料

コカ・コーラ社製品を多くのみなさまに親しんでいただくため、工場見学を実施しています。コカ・コーラ誕生のエピソードや歴史、品質管理や環境への取り組みをご紹介しますとともに、迫力ある製造ラインを見学いただけます。みなさまのご来場をお待ちしています。



多摩工場

☎ 042-471-0463

東京都東久留米市野火止1-2-9

開催日

月曜日～金曜日

祝日

(工場休業日除く)



蔵王工場

☎ 0224-32-3505

宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1

開催日

月曜日～金曜日

祝日

(工場休業日除く)



東海工場

☎ 052-602-0413

愛知県東海市南柴田町の割266-18

開催日

月曜日～金曜日

祝日

(工場休業日除く)



京都工場

☎ 0774-43-5522

京都府久世郡久御山町田井新荒見128

開催日

火曜日～日曜日

(工場休業日除く)



小松工場

☎ 0898-76-3030

愛媛県西条市小松町妙口甲806-1

開催日

月・水・金曜日

(工場休業日除く)



えびの工場

☎ 0984-25-4211

宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1

開催日

火曜日～日曜日

(工場休業日除く)



ご予約の際は事前にウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ccbji.co.jp/plant/>





発行

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

総務本部 コーポレートコミュニケーション統括部
CSV推進部

〒107-0052

東京都港区赤坂6-1-20国際新赤坂ビル西館

お問合せ

コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)ウェブサイトの
「お問合せ」フォームをご利用ください。



<https://www.ccbji.co.jp/inquiry/>